

天地

ネットワーク テーブル 490号

天地シニアネットワーク 201

9. 3. 15

T E N T I T O D A Y			1
会員の広場			2
連載作品			2
科 学	天のわざ、地のほまれー地球を測れ、宇宙を測れ 63. 相対論的距離と固有時間	伊那 闊歩	
歴 史	米国の統治の仕組みと大統領制、と建国の父たち(3)	佐川 雄一	6
随 想	「静聴雨読庵より」 サロン・ド・ミュージック・クラシック(2)	尾関 陽四	9
随 想	『誰も見てなくても良いことをする社会』(5) <礼儀正しい新幹線ワゴンサービスの販売員>	臺 一郎	10
旅行記	そうだ京へ行こう・古刹の花物語(62) 北野線の古刹6・妙心寺	大竹 漢洲	12
講演会	「奈良興福寺文化講座」「新三木会」		14
事務局			14

T E N T I T O D A Y

96歳になる高校時代の担任の先生、3月に入って危篤状態との知らせがあり急ぎお見舞いに行きました。ベッドに寝たきり状態でしたが、話しかけると目を開き片言は発します。食事は殆どとらず、もっぱらノンアルコールのビールだけ飲んでいました。三日後の14日朝、一人で旅立たれとの知らせがありました。ノンアルコールとはいえ、ビールを飲みながらの旅立ち、さすが先生と感無量、最後まで教えを忘れぬ良き師でした。折しも東京大空襲のあった3月、九死に一生を得た師の短歌が平成8年に出された歌集「余白」に残されています。

下町地獄

亀戸の綱索工場に在りし日は五十年前 学半ばにて
情報の管制きびしき中にしてこの夜予感す三月九日
火の山の爆ぜたる紅き焦炎の夜をこめとよもす轟々として
炎の海の波及を防ぐと周辺の家引き倒す夜の明くるまで
顔煤け眼の赤き仲間らと迎へし朝は魂も抜けたり
江東の劫火の迫る端にして命生きたり亀戸九丁目
大塚の学寮さして帰りゆく都をおほふ異臭の中を
一夜に異形となりし同胞を踏まじと歩む京葉道路

下町を地獄としたるこの夜を説くことばなし殺戮無残

学徒出陣で神宮外苑を行進したことも、東京大空襲に遭遇したことも、全く話さぬ師でした。生徒たちには、二度とこのような惨めな経験をさせたくないという強い思いが、黙秘のうちにきっとあったに違いありません。

会員の広場

24時間営業のコンビニ、「7-11」がフランチャイジーの営業時間短縮要求で、マスコミの矢面に立たされています。30年以上前ですが、知り合いの酒屋さんが「7-11」のフランチャイジーになりたいと申し込んで断られたという話を聞きました。会社側がある程度所得保証をするので、事前に周辺の商圈調査をする。その時の結果は、水準まで行くのが難しいということだったようです。セブンのような、システムで成り立つビジネスは、構造的な変化への対応が難しい。前提が崩れた時に、真の実力が試されます。今後どうなるか大いに注目されます。(T・T)

連載

天のわざ、地のほまれ

—地球を測れ、宇宙をはかれ—

伊那 闊歩

63. 相対論的距離と固有時間

3次元(ユークリッド)空間中の1点 $P = (x, y, z)$ と原点 O の間の距離 l は、ピタゴラスの定理により

$$l = \sqrt{x^2 + y^2 + z^2}$$

で与えられる。この公式は、空間の次元が4次元 $P = (x, y, z, u)$ ならば、

そのまま4次元に拡張して $l = \sqrt{x^2 + y^2 + z^2 + u^2}$ が4次元ユークリッド空間内の距離の公式として採用できる。

4次元空間内の2点 $P(x_1, y_1, z_1, u_1), Q(x_2, y_2, z_2, u_2)$ の間の距離 $l(P, Q)$ を

$$l(P, Q) = \sqrt{(x_1 - x_2)^2 + (y_1 - y_2)^2 + (z_1 - z_2)^2 + (u_1 - u_2)^2}$$

と定義する。この距離 l は2点の座標 P, Q の関数である(P, Q が動けば l の値が変わる)。一般に距離 l は次のような性質をもっている：

- (1) $P = Q$ ならば $\ell(P,P) = \ell(Q,Q) = 0$ で、逆に $\ell(P,Q) = 0$ ならば $P = Q$ である。[2 点の位置が異なればその距離は 0 にはならない]
- (2) $\ell(P,Q) = \ell(Q,P)$ [P,Q どちらから測っても距離は同じ]
- (3) 3 点 P,Q,R に対して三角不等式： $\ell(P,R) \leq \ell(P,Q) + \ell(Q,R)$ が成り立つ。

これらの性質を持った距離が定義されている空間を「**距離空間**」という。

ところが、現実の時間・空間はそれほど簡単なものではない。そこは、重力の影響や効果を考慮しないとしても、特殊相対性理論によって支配される世界なのである。

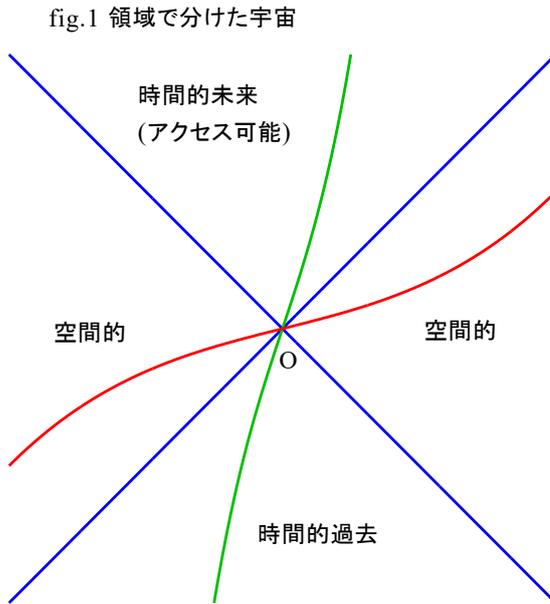
前回までに見たとおり、空に輝く星の光は、過去にその星を発した光なのであって、たとえば、ベテルギウス(オリオン座の 1 等星)の光は常に 650 年昔の光なのだ。それは、光のスピードが有限(秒速 299,792,458 メートル)であることにより、空間的な距離を現時点で同時に測ることができないためである。光のスピードが無限大であるならば、眼に見えているものは、現時点でのものの姿であるから、何もややこしいことは起こらない。現実の世界では、現時点でベテルギウスが超新星爆発により消滅していたとしても地球上ではそれを知るすべがない。さらに、真空中でどの慣性系から観測しても光速は一定であるという特殊相対論の基本原理が大前提となっているので、各慣性系での時間(固有時間)の進み方が異なってくる。そのため、空間の 2 点間の距離という概念も根本的に考えなおさなければならない。

前回、4 次元時間空間(これを宇宙(*1)または時空とよぶことにする)を $s^2 = u^2 - x^2 - y^2 - z^2$ という量に基づいて領域に分けた。ここで、 $u = ct$ 、 c は光速、 t は時間である。話を簡単にするために、空間 1 次元として、以後

$$s^2 = u^2 - x^2$$

とする(*2)。fig.1 の**時間的未来**の領域の各点 (u,x) は常に $[s^2 > 0, t > 0]$ を満たす。 $[s^2 > 0, t < 0]$ は**時間的過去**の領域に対応する。 $s^2 < 0$ は**空間的領域**に対応するのであった。原点 0 から時間的未来の領域のどの点へもアクセス可能である。時間的過去の点からも原点にアクセス可能である。しかしながら、原点から空間的領域内の 1 点へのアクセスは不可能なのである。つまり、原点から赤い曲線に沿って移動することは不可能である。

$s^2 = 0$ は光の通り道で、それは fig.1 の青色で示された 2 本の直線である。



ここで、時間的未来および時間的過去の領域で原点 O から点 (u,x) までの (相対論的) 距離 s を

$$s = \sqrt{u^2 - x^2}$$

と定義しよう (*3)。

この領域では $u^2 > x^2$ であるから s は実数である。特殊相対論の要請に従えば、座標変換 [つまり、ローレンツ変換 : $(u, x \rightarrow u', x')$] によって $u^2 - x^2$ は不変に保たれることがわかっている :

$$s = \sqrt{u^2 - x^2} = \sqrt{(u')^2 - (x')^2} = s'$$

換言すれば、慣性系 S で測った長さは、慣性系 S' に住む人が測っても同じであるということなのだ。ただし、注意すべきことは、慣性系 S と S' それぞれの単位の長さ (目盛り) はローレンツ変換で異なってくるので、 S' の 1 m を S の観測者が測っても 1 m にはなっていないとはかぎらない。事実、そうはなっていないのだ (ローレンツ収縮が生じている)。また

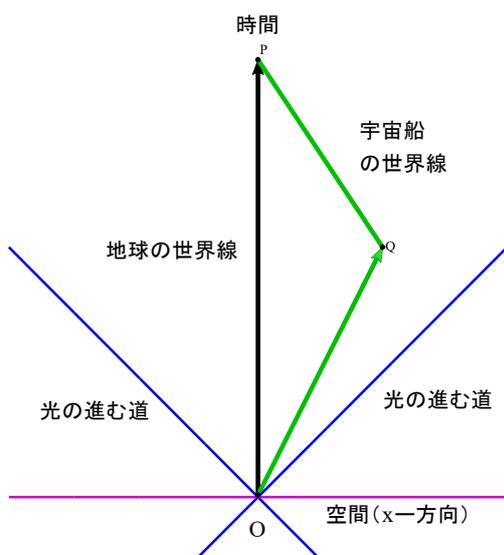
$$\tau = \frac{1}{c} s$$

を「相対論的 (不変な) 時間」と定義しよう。

次の図 (fig.2) には、地球の世界線と宇宙船の世界線が描かれている。慣性

系 S の中では地球は静止しているとするので、地上では時間だけが未来(図の上方)にむかって進む：その世界線は黒色の縦線によって表示されている。この場合、 $x = 0$ なので $s = \sqrt{u^2 - x^2} = u = ct$ となる。慣性系 S の中で静止している時計が刻む時間を慣性系 S の「固有時間」とよぶことにしよう。地球上の固有時間は t ($= \tau$) である。

fig.2 地球、宇宙船、光の世界線



一方、宇宙船は目的地 Q に到達し、そこで折り返して QP の経路を経て地球に帰還する。すると次のような常識では考えられないような奇妙な現象が起こることを容認しなければならない。つまり、地上に止まっているもの ($x = 0$) の世界線が一番長く、宇宙船のように動いているものの世界線は短い (x が 0 ではないから) ということなのだ。相対論的時間は相対論的距離に比例するから、静止し続けているものの消費時間の方が、たえず動きまわっているものが消費する時間よりも長くなるのだ。

宇宙船のスピードが上がればあがるほど図の Q の位置は下がってきて、光の進む道に近づいてくる。その時、 $u^2 - x^2$ はどんどん小さくなる、つまり、原点 O から Q までの相対論的距離は限りなく小さくなる。原点 O を出発した宇宙船のクルーはアッという間に目的地に到着したと感ずることであろう。帰路についても同じである。この結果、宇宙旅行してきた兄の方が地球に止まっている弟よりも歳をとっていないということがあり得るのだ (双子

のパラドックスの原理)。

光の進む道の上では $s = \sqrt{u^2 - x^2} = 0$ であるから、光は距離も時間もな
い世界に棲息している—この宇宙はそのような世界をも包含しているのだ。

空間的領域 $u^2 < x^2$ では $s^2 < 0$ であるから、 s は虚数になる。ア
クセス不能な点の数学的表現は、その相対論的距離が虚数になるということ
なのである。

最後にもう一度 fig.2 を使って、地上に静止している弟と宇宙船で航行中
の兄が経験する時間を比べてみよう。兄が目的地 $Q(u,x)$ に到達するまでの世
界線は直線 OQ である (O は図の原点)。宇宙船のスピードは v であるか

ら $x = \beta u$, ($\beta = v/c$, $u = ct$) となる。そこで

$$s = \sqrt{u^2 - x^2} = u\sqrt{1 - \beta^2}, \quad \tau = \frac{1}{c} s = t\sqrt{1 - \beta^2}$$

一方、宇宙船と共に動く座標を $Q(u', x')$ と書き、宇宙船は $t = t' = 0$ の
とき地球を出発したのであるから、以後常に $x' = 0$ とすると

$$s' = \sqrt{(u')^2 - (x')^2} = u' = ct', \quad \tau' = \frac{1}{c} s' = t'$$

$s = s'$, $\tau = \tau'$ であるから

$$t' = t\sqrt{1 - \beta^2}$$

となることがわかる。これは宇宙船が目的地 Q に到達するまでの宇宙船での
経過時間 t' を地球上で経過する時間 t によって表したものである。この
結果 $t > t'$ であるから、宇宙船の時間は地球時間にくらべてゆっくり
進むことがわかる(*4)。

注)

(*1) 漢字で「宇宙」と書くとき、「宇」は四方上下つまり空間的な広がりを意味し、「宙」
は往古来今(遠い昔と現在と今後)つまり時間のすべてを意味するという(淮南子より)。

(*2) 相対的な運動が x 方向である場合、 y 、 z 方向は(座標変換によって不変であるた
め)考慮する必要がなく省略できる。省略することによって相対論の本質が失われること
はない。

(*3) 根号の中身にマイナスが入っているため、これを通常の距離と考えるわけにはいかない。 $u^2 - x^2 = 0$ ならば、これは光の道を与えるがこれは上記距離空間の公理(1)を満足しない。つまり、距離が0なのに、 x と u はゼロでなくともよい。

(*4) $t' = t\sqrt{1 - \beta^2}$ は、No.57「時間が遅れる」の式 $T = T_0/\sqrt{1 - \beta^2}$ と一見矛盾する結果ではないかと思われるが、今回は宇宙船での経過時間が縮まるのである。No.57では運動している慣性系での経過時間の「目盛り」が伸びるのであった。内容は同じことである。

米国の統治の仕組みと大統領制、と建国の父たち(3)

佐川雄一

III 米国の統治の仕組みと大統領制 {一}

1789年、自由と民主主義の試みとして始まった米国の統治制度は、弾力性と適応性が極めて高いことが実証されてきた。これだけ長い間、統治制度が存続してきたのは、立法府、行政府、司法府の権限と責任を明確にし、3つの部門に権力を分散させる「抑制と均衡」(Checks and Balances)の制度が機能してきたことが指摘される。

1. 立憲連邦共和国としての米国

米国は民主主義の国家として分類されることが多いが、より正確に言えば、立憲連邦共和国と定義することができる。「立憲」とは、米国の政府が、国の最高法規である憲法に基づいていることを指す。憲法は、連邦政府と州政府の機構の枠組みに大幅な制限を課している。「連邦」とは、中央の政府と50州から成ることを意味する。「共和国」は、主権は国民が持つが、選出された代表者がその権力を行使する政体であることを意味する。

2. 米国の統治制度について

共和国である米国の統治制度における究極の権力は国民に帰属する。この権力は、定期的に実施される選挙によって、大統領、連邦議会議員、そしてさまざまな州と地方の候補者を、有権者が選出することで行使される。

3. 合衆国憲法の役割

合衆国憲法は、米国の統治制度の青写真である。1789年に批准された憲法は、3つの独立した政府部門(立法府・行政府・司法府)とその権限、そして各部門の人事の決め方を定めている。合衆国憲法を特徴づけているひとつの要素は、3つの部門に権力を分散させる抑制と均衡(Checks and Balances)の制度である。各部門は、他の部門に対して何らかの形で権限を行使する。例えば、最高裁判所裁判官(司法)は大統領(行政)が指名するが、この指名は上院(立法)の承認を必要とする。同様に、議会で可決され、大統領が署名した法律を、憲法違反であるとして司法が無効にすることができる。こうした抑制と均衡は、いずれかの部門が過度の権限を行使しないように保障している。政府は憲法で明確に付与された権限しか行使できないため、憲法は国民の権利と権限の重要な保護者である。

連邦政府の所在地を、いかなる州にも属さない特別区に置くことで、独占的な立法権を行使できると憲法で定めているが、初代大統領：ジョージ・ワシントンが就任した 1789 年、立法・行政府はニューヨークにあった。翌年の 1790 年、フィラデルフィアに移転するが、首都がワシントン特別区に移ったのは 1800 年である。従い、ジョージ・ワシントン（在任期間、1789～97 年）がワシントン特別区で執務することはなかった。ワシントン特別区で執務する最初の大統領は 2 代目：ジョン・アダムズである。

4. 州政府

連邦制を採用している米国では、中央の政府から州・地方政府に至るまで、政府が数層に分かれている。そのうちの 2 層である連邦政府と州政府については、合衆国憲法の中で規定されている。州政府は連邦政府の下部単位ではない。各州は主権を有し、憲法上、連邦政府のいかなる監督下にも置かれていない。ただし、合衆国憲法や連邦法と州の憲法や法律が矛盾する場合には、合衆国憲法や連邦法が優先する。また、合衆国憲法は、各州に共和政体を保障しているので州政府は連邦政府と同じ組織構成である。つまり、各州とも、行政府の公選首長（知事）、独立した司法府、公選による立法府を持つ。

5. 連邦政府

5-1. 立法・行政・司法の三権分立、抑制と均衡

連邦政府は、3 つの別個の部門、すなわち立法府、行政府、司法府から成り、各々が明確に定められた憲法上の権限と責任を有する。3 つの部門はお互いに「抑制と均衡」が作用し、単一部門だけで統治できる仕組みにはなっていない。大統領が推薦する高官も立法府の反対で承認されないケースが起こる。

連邦政府の権限と責任は、合衆国憲法で明確に付与されているものに限定されている。憲法で定められた連邦政府の権限には、州間の通商の規制、国防、貨幣の鑄造、移住や帰化への規制、諸外国との条約締結などが含まれる。両院協議会で合意した法案が両院で可決された場合には、署名を得るために大統領に送付される。大統領には 4 つの選択肢がある。① 法案に署名して法律にする。② 連邦議会の開会中に何の行動も取らない。この場合、10 日が経過すると、その法案は大統領が署名した場合と同様に法律となる。③ 連邦議会の休会により、法案を還付することができない場合は法律とならない。この場合、法案は廃案となる。④ 法案に拒否権を行使する。大統領が法案を拒否した場合、連邦議会は大統領の拒否権を覆すことを試みることができるが、上下両院で 3 分の 2 の賛成が必要となる。

法律制定に加え、連邦議会の最も重要な活動のひとつとなっているのが、行政府の監視である。連邦議会は、行政府に法律を誠実に履行させるため、行政府の業務や活動を調査するための公聴会を開催することができる。

5-2. 立法府

連邦政府の立法府は、2つの議院（連邦上院、連邦下院）から成る連邦議会である。法案は、両院を通過しなければならない。その後で大統領に送付され、その署名により成立する。

毎年、何千件もの法案が連邦議会に提出されるが、成立するのは数百件に過ぎない。実際に法案を提出できるのは上院議員または下院議員のみである。

上院 (Senate)

- 「Upper House（上位の議院）」と見なされ、下院よりも審議機能が高いと考えられている。
- 100人 全州から均等に2人の上院議員が選出される。
- 上院議員の任期は6年で、務める任期の数に制限はない。
- 選出の便宜のため、上院議員は3つのグループに分けられ、1つのグループが2年ごとに改選される。この仕組みにより、経験のある現職議員が常に確保されるようになっている。
- 副大統領が上院議長を務め、可否同数の場合のみ票を投じる。

下院と同じく広範な立法権を有するが、上院のみに付与されている権限もある。すなわち、

- 連邦最高裁判所と連邦下級裁判所、行政府の主要な役職の大統領による指名人事は、被指名者の就任に先立って上院が承認しなければならない。
- 上院は、大統領が取り決めた国際条約を可決または否決する。
- 大統領または連邦最高裁判所裁判官が弾劾訴追された場合には、上院本会議が弾劾裁判を行い、陪審として機能する。

上院議員の議員資格として、9年以上合衆国市民であること、年齢30歳以上、選挙実施時 その選出州の住民であることが求められる。

下院 (House of Representatives)

- 「House of the people（人民の議院）」と見なされる。
- 435人の下院議員で構成され、議席数は人口に応じて各州に割り振られる。435人の下院議員は、50州から選出される。各州に割り振られる議員数は、10年ごとに実施される人口調査で決定する。現在、約70万人にひとりの議院枠が与えられているが、一番多い議院枠を割り振られているのはカルフォルニア州の53人である。
ただし、人口の少ない州でも最低1人の議院枠の確保が保障される。1人議院枠の州はアラスカ、デラウェア、モンタナ、ノースダコタ、サウスダコタ、バァーモント、ワイオミングの7州である。
- 下院議員の任期は全員2年で、任期の数に制限はなく、全員が同時期に選出される。
- 各議員は、下院選挙区と呼ばれる州内の特定区域から、1人ずつ議員が選出される。
- 下院議員は下院議長を選出する。下院議長は下院の統括者であり、実際にはた多数党に所属する。

上院と共有することなく下院だけに付与されている特別な権限および責任として、以下に示すものが含まれる。

- 大統領と連邦最高裁判所裁判官に対する弾劾訴追を行う権限
- 歳入の徴収に関するすべての法律は、まず下院に提出されなければならない。
- いずれの大統領候補者も選挙人数の過半数を獲得しなかった場合、下院が大統領を選出する。この場合、各州の議員団はそれぞれ1票を有する。下院議員の議員資格として、7年以上合衆国市民であること、年齢25歳以上、選挙実施時、その選出州の住民であることが求められる。

「静聴雨読庵より」

尾関陽四

サロン・ド・ミュージック・クラシック (第2回)

(3) ベートーヴェンの器楽曲・室内楽曲 (ピアノソナタを除く)

2回目は原田さんの主宰で原田宅に集まった。原田さん宅のオーディオシステムの構成:

プリメインアンプ: マランツ PM-17SA
 コントロールアンプ: ラックスマン C-600f
 パワーアンプ: ラックスマン M・600A
 SACD プレーヤー: デノン DCD-0SX
 LP プレーヤー: トリオ KP-800
 カートリッジ: デノン DL・30U
 スピーカー: タンノイ Westminster Royal

テーマは「ベートーヴェンの器楽曲, 室内楽曲(ピアノソナタを除く)」。

原: ベートーヴェンのピアノソナタは巨大な達成なので、別建てにすることにしました。

尾: わかりました。まず、『ピアノ三重奏曲第7番「大公」』を聴かせてください。

原: まず、カザルス・トリオのものです。1958年のライブ録音です。

尾: ゆったりしていますね。

原: カザルスのチェロが素晴らしいでしょ。

尾: 私の持参したロストロポーヴィチなどのトリオを聴いてください。

原: 録音がいいですね。

尾: 1956年のモノラル録音です。

原: ピアノの音が際立って聞え、チェロが少し霞むようです。

尾: 私はロストロポーヴィチのファンですが、この演奏ではゼルキンの熱演に接して感激しました。

原: 次に、『チェロソナタ第3番』を聴きましょう。まず、デュ・プレとバレンボイムのデュオです。

尾: メリハリの少ない、流れるような演奏ですね。私は、ロストロポーヴィ

チトリヒテルの演奏を持ってきました。

原：このステレオ録音は弦の響きが素晴らしいですね。

尾：ピアノとのバランスもいいですね。堂々と歌うようなチェロ、水玉のはじけるようなピアノ。最高の組み合わせでしょう。

尾：後半は『中期弦楽四重奏曲集』から『第 12 番「ハープ」』を聴きましょう。

原：演奏・録音とも申し分ありません。

尾：私は、クワルテットではアルバン・ベルク弦楽四重奏団が最も好きなんですよ。

原：それでは、対抗馬として東京クワルテットを聴いてみましょう。

尾：ははは、聴き比べてみると、私のアルバン・ベルク弦楽四重奏団の好きな訳があぶり出されるようにわかりました。つまり、華麗なのだけれど抑制が利いているところです。

原：いろいろ聴いてきたけれど、ベートーヴェンはまったく駄作のない作曲家ですね。

尾：ええ、オペラ『フィデリオ』を除けばね。
(つづく)

『誰も見ていなくても良いことをする』社会（5）

臺 一郎

礼儀正しい新幹線ワゴンサービスの販売員

前回までは、我が国の社会が『誰も見ていなくても悪いことをしない社会』であることを書いた。今回は更に一步進めて、時に『誰も見ていなくても良いことをする社会』でもあることを書く。

僕は列車の旅が好きである。在来線や新幹線であちこちへ行くのは、自分にとって旅の大きな楽しみだ。車窓を流れていく町や自然などの風景を見るのも、座席で好きな小説やエッセーなどをじっくり読むのも、車内で弁当やスナック菓子を食べ、熱いコーヒーを飲むのも好きである。数年前まで、僕は仕事の関係で毎月のように東海道新幹を利用して名古屋や大阪に出張していた。列車の旅が好きな僕にとって、新幹線で行く出張は、旅費まで会社から出て、しかも列車の旅が楽しめるって毎回心待ちであった。

さて、こうした出張で東海道新幹線に乗る度に感じたことがひとつある。それは各車両の通路を、ワゴンを押しながら飲料や弁当やスナック類を売っている販売員のマナーや礼儀正しさのことだ。彼女達はひとつの車両で販売が済むと、次の車両へと移動する。東海道新幹線は 16 両編成と非常に長い。彼女達は、その 1 号車から 16 号車までをワゴンを押しながら何回も往復する。飲料や弁当などをぎっしりと積み込んだワゴンは決して軽い。それどころか相当に重い。これを押して新幹線の 16 両分＝約 400m を歩くのは結構な肉体労働に違いない。にもかかわらず、彼女達は笑顔を絶やさず、『お弁当にサンドイッチ、お茶にコーヒーなどいかがですか』と声をかけながらワゴンを押していく。

車両移動のたびに、彼女達はドアの前で、客のほうを向いて丁寧にお辞儀

をしてからドアを潜り抜けて連結部分を渡って次の車両へと移っていく。僕の計算では、先頭車両から最後尾の車両までワゴンを押していくと、おそらく 30 回位はドアの前で客席に向かってお辞儀をしているはずだ。それを仮に 2 往復すれば、距離にして約 1.6km を押し歩き、お辞儀の総回数はなんと 120 回にもなる。このほかにワゴンサービスを利用してくれた各お客への直接の「ありがとうございます」の挨拶、すれ違うためにワゴンの脇を横向きで歩く乗客への『すみません』や『恐れ入ります』の挨拶などもあるから、2 往復の場合でさえ、頭を下げる延べ回数は、おそらく 200 回を超えるだろう。

で、ここでいたく感心するのは、彼女達が電車の進行方向とは逆の、後方のドアから出て行く際にも、また後ろの車両から入ってくる際にも、両手をエプロンの前に揃えて丁寧に頭を下げてお辞儀をするという点である。この場合、お客は、たまたま立ち上がって後ろを向いた人以外は、ほぼ全員が前方を向いて座っている、つまり誰も彼女達のお辞儀を見ていないのである。にもかかわらず販売員である彼女達は丁寧に頭を下げてお辞儀をする。これは偉いというか凄いと思う。

お辞儀の意味や理由は、ワゴンサービスのご利用に対する感謝であったり挨拶であったり、座席のすぐそばをワゴンを押して通ることで睡眠や読書の妨げをしたかもしれないことへのお詫びであったり、或いはこれにて失礼いたしますという退出の挨拶であったりするのだろうが、列車のワゴンサービスの販売員が、ここまで礼儀正しく丁寧な国は日本くらいではないだろうか。

彼女達は会社から車両移動の際には、前方後方を問わず、ドアの前で丁寧にお辞儀をするように指導されているのだろうが、上司や先輩が見ているわけでもなく、ドアによってはお客も全員が前方を向いているため自分達を全く見てないのにもかかわらずそうするのは、生真面目で規則を無視するのが苦手な日本人の性分という面もあるだろうし、日本人は子供の頃から、お辞儀の大切さや必要性を繰り返し繰り返し教育されてきたからでもあるのだろう。

観光立国が重要な産業政策や経済政策となっている 21 世紀の我が国では、こうした丁寧で誠意と真心のこもったお辞儀や挨拶の習慣は、これからも是非とも続けていただきたいと思うのは筆者だけではないだろう。

販売員が心の中で『ありがとうございます』と唱えながら、深く頭を下げて丁寧にお辞儀をすると、その誠意や感謝の気持ちは、彼女達の身体からオーラとなって放射され、テレパシーのように、新幹線で前を向いて座っている乗客にも伝わっていくのではないだろうか。特に海外からの観光客に対しては、日本の印象を確実に向上させるに相違ない。

前回までに書いたように、日本社会はしばしば『誰も見ていなくても悪いことをしない社会』だが、更に時には『誰も見ていなくても良いことや正しいことをする社会』でもある。これは誇って良いことだと思う。

北野線の古刹6・妙心寺

洛中の西、双ヶ丘の東に「花園」と呼ばれる処があります。平安時代以降この地には数多くの公卿たちが別荘を開き、四季の花々が咲き競う花畑でもありました。何時しか人々は、この地を「花園」と呼ぶようになりました。この地をこよなく愛して、離宮を営んで禅の奥義を極めるとともに、常に世の中の平和を願った人物がおります。花園法王です。この離宮の地が、現在の妙心寺の全境内にあたります。広大な離宮であったことが伺えます。

「正法山妙心寺」が正式の寺名で、臨済宗妙心寺派の大本山で大寺院です。妙心寺は塔頭の数多くを多く抱えている大寺院にも拘らず、大徳寺や南禅寺・天龍寺に比べて、観光客が余り訪れないのが不思議です。観光客が寺院に魅力を感じないのか？ 妙心寺自体が積極的に観光客を呼び込まないのか？ どちらかです。自分も2度程しか訪れていません。大徳寺や天龍寺の塔頭程、強く記憶に残っていません。建仁寺も同じようです。今回訪れて疑問を解消したいものです。

妙心寺は洛中から西の外れに位置していますが、交通機関も便利です。京福電鉄北野線の妙心寺駅で下車して、南に歩けば、北総門から境内に至ります。因みに北に行けば、足利家の菩提寺・等持院、更には龍安寺です。或いはJR嵯峨野線の花園駅を北東に進めば、南総門が境内の入口になっています。境内は夜間も開放されていて、自由に通行できる生活道路です。勿論本堂・塔頭の見学は時間制限があります。

1337年（建武4年）、妙心寺は南北朝の動乱期に、花園法皇が自らの離宮を禅寺として改めたのが始まりです。開祖として関山慧玄（無相大師）が迎えられ、寺院としての形が徐々に成されていきます。妙心寺の教義はインドの達磨大師に基づいています。

達磨大師は南インドのバラモン（婆羅門一四種姓＜ヴァルナ＞）制度中の最高位である僧侶・司祭階級にあたります。達磨大師は梵天の末裔で、その口から出たものとされ、もっぱら祭祀・教法を司り、他の三姓（クシャトリアー王族・武士階級、ヴァイシヤー平民、シュードラー隷属民）の尊敬を受けた階級でした。達磨は般若多羅に学んだ後、中国・梁朝に渡って武帝と問答を経て、嵩山の少林寺に入り、9年間面壁座禅した大師でもあります。大師の教えは弟子の慧可に伝えられた。開祖慧玄は慧可の流れを汲んだ教義です。

京都の禅寺一南禅寺・龍安寺の玄関先に、大きな達磨大師の肖像画があります。これは、自寺が大師の教義を受け継いでいる事を表しています。

創建された妙心寺は、順調に発展した訳ではありません。花園法王の庇護を受けていた時代は順調でしたが、室町幕府開府以降、将軍家から強い圧力を受けて、一時仏教活動は中止させられました。その後、将軍家の権力弱体化に伴い再興するまでになりましたが、都を戦いの場として、1467年（応仁元年）に起こった「応仁の乱（東軍・細川勝元・西軍・山名持豊）」で、全て

の堂伽藍は灰塵に帰してしまいました。応仁の乱では、洛中の全ての寺社仏閣、御所が被害を蒙り、平安時代に造られた建造物、工芸品で、今日まで伝えられているのは些少です。皮肉なことに妙心寺は東軍の細川勝元の支援で復興しました。

現在、妙心寺には中心の建物・本堂と46の塔頭を数えますが、妙心寺に次々に名僧が輩出された事もあり、武士階級が帰依して、再び江戸時代に隆盛期を迎えることとなります。今日ある建物は、徳川家の経済的な助力で、江戸時代初期に建立されたものです。

旅人夫婦は、定宿 ANA クラウンプラザホテル前の市営地下鉄東西線の二条城前駅から一つ目の二条駅で下車し、JR 嵯峨野線に乗換え、嵯峨野の古刹を巡る途中に、花園駅で降りて、妙心寺を訪れました。

JR 嵯峨野線はかつての山陰線の部分的な区間の別称ですが、嵯峨野駅は変わらないものの、止まる途中駅と電車は新しく様変わりしました。東西線が開通してから、京都の東西にある寺社の見学は便利になりました

花園駅で降りて、北東に丸太町通を上ると妙心寺の格式の高さを象徴するかのよう、中央に勅使門が見えてきます。普段通用するのは右手に位置する南総門で、北の北総門と相對しています。

妙心寺は大伽藍で本堂である「仏殿」を始めとして、数多くの塔頭があります。しかし一般公開されている塔頭は限られています。塔頭によっては期間限定で公開しています。例えば冬期とか夏期とか、観光客の少ない時期に特別公開されます。しかも伽藍には松樹が多く落葉樹が見当たりません。妙心寺は特に紅葉の名所ではありません。この辺りが人気のない理由の一つかもしれません。

南総門を潜ると目の前に放生池があります。放生池の先が「三門」です。三門には空・無相・無作と言う、禅の境地の解脱の意味が託されています。二重門(二階建門)で上層には円通大士(観音)と十六羅漢像が安置されています。三門は紅殻で塗られて、伽藍で唯一赤い建物です。本山の伽藍構造は、中国の禅宗の形式を受け継いで直線上に整然と並んでいます。三門に続き、「仏殿」「法堂」「大庫裏」そして東側には「大方丈」と「小方丈」とが続いています。本堂の周囲は数々の塔頭で囲まれています。

本山で公開されているのは「仏殿」「法堂」と「浴室」だけでした。「仏殿」が妙心寺の本堂です。本尊として釈迦如来像と迦葉・阿南の脇侍像が祀られています。

「仏殿」では毎朝の勤行の他に、釈迦尊の三仏忌である降誕会(ルンビニ)成道会(ブッタガヤ)涅槃会(クシナガラ)が勤められています。「法堂」には仏像は安置されていません。今日で言う多目的ホールの役割を果たし、住持の法話と座禅に用いられるとのこと。「法堂」も特別公開期に限定されています。「鏡天井」と呼ばれる丸い天井には、狩野探幽が8年の歳月を掛けて描いた「雪龍図」が上から圧迫する姿で迫ってきます。威圧する龍眼と鋭利な手足の爪が印象的です。「法堂」を支えている柱はケヤキで、高さは8メートルほど、周囲は2メートルある巨木です。再建された江戸時代に富士山麓から海路で運ばれて来たものです。

「浴室」はかつて僧侶たちの入浴に用いられた建物でした。湯が沸いた合図

は鐘を叩いて知らせました。春日局から寄進された鐘でしたが、出火で焼失してしまいました。東山信行寺の仁王門にあった鐘を譲り受けて、新たに掛け替えられました。奇しくも鐘は春日局が、信行寺塔頭、麟祥院に寄進したものでした。偶然とはいえ奇縁です。

文化講座・講演会

奈良・興福寺文化講座 2019年4月18日(木曜日)

午後5時半～6時半：第一講

「古写真から振り返る境内整備」

興福寺僧侶 大森俊貫

午後6時40分～7時・・・心を静める

午後7時～8時：第二講

連続講話・「奈良・祈り・心」 興福寺 貫首 多川俊映

会場：(学)文化学園 文化服装学院内

受講料：500円 先着200名

(JR新宿駅南口、小田急線、京王線各新宿駅から8分、都営新宿線新宿駅3分)

第104回 新三木会 講演会のご案内

1. 日時 3月21日(木)(祝祭日決行) 13時～ オリオンルーム
2. 講師 渡辺 靖氏 慶応義塾大学 SFC 教授 文化人類学、アメリカ研究
3. 演題 『アメリカ「トランプの国」はいつまで続くか』
4. 申込 Eメール：shinsanmokukai@gmail.com

電話：070-6994-0137 フルネーム・卒年・所属(紹介者)記入

天地シニアネットワークと言って申し込んでください

5. 会費 一般2千円, 婦人千円、学生(院生)無料、茶話会ありません
6. ホームページ <http://jfn.josuikai.net/ircle/shinsanmokukai/>

7. 今後の予定

第105回 4月18日(木)『日本の社会主義—戦前の思想・運動と群像』
加藤哲郎氏 一橋大学名誉教授 政治学

第106回 5月16日(木)『メルケル時代の終焉、ドイツ・EUの今後』
早瀬 勇氏 全国日独協会連合会副会長 元星稜大学学長
一橋大学 s 34年卒 西独ゲッティンゲン大学留学

事務局

<投稿><図書のおすすめ>を歓迎します。

<プリント版・郵送>

メール版を編集してプリント版を月に1回発行郵送しています。

お申込みくださればお送りします。一応、実費として1月350円(4200円/年)をいただいておりますが、強制するものではありません。

<振込先>振込先：三井住友銀行「神田支店」（普通） 7871532
（口座名）テンチシニアネットワーク

天地シニアネットワーク・テーブル・490号

発行：2019年3月15日

天地シニアネットワーク事務局（津田 孚人）

〒116-0001 荒川区町屋3-2-1

ライオンズプラザ町屋703

メールアドレス：tentisenior06@gmail.com

電話・FAX・03-3819-7651